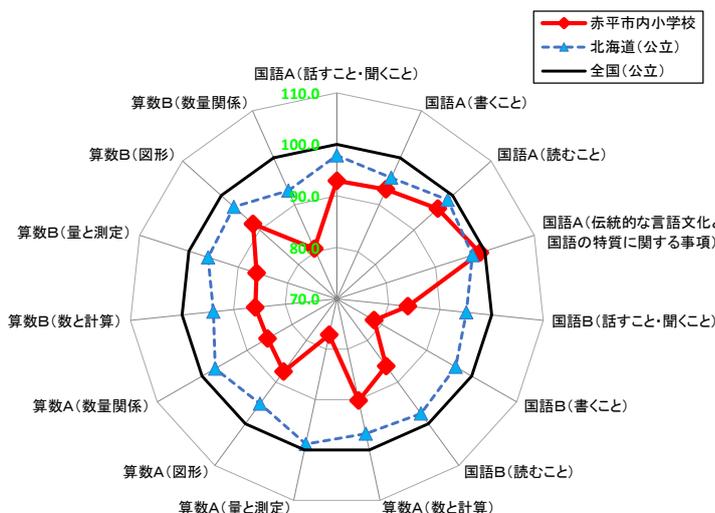


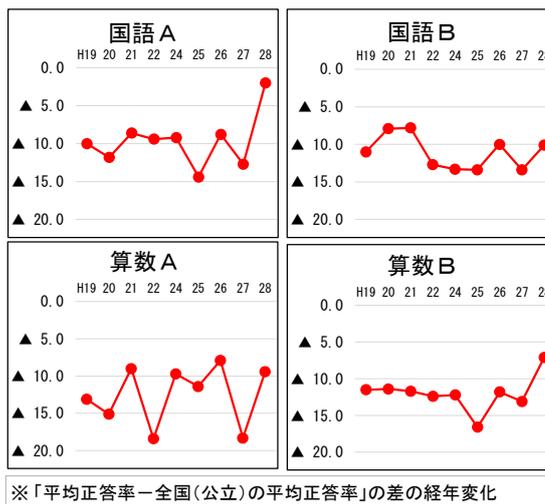
# ■赤平市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:3、児童数:53名)

## 【教科全体の状況】

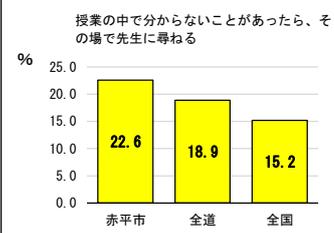
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



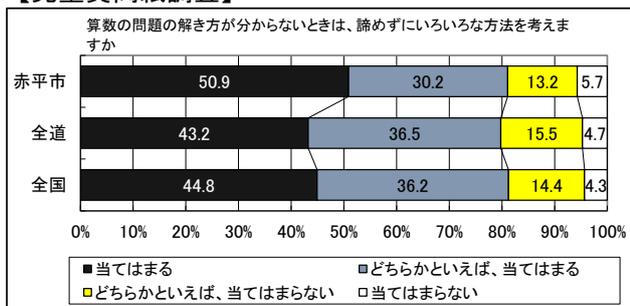
## 【平均正答率の全国との差の推移】



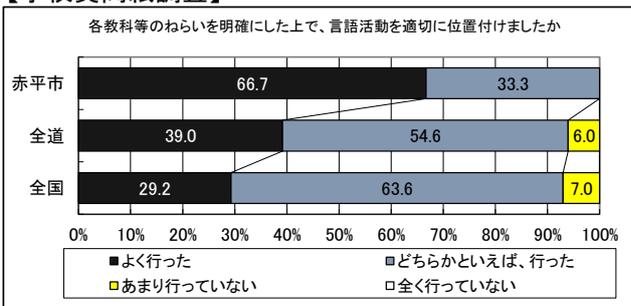
## 【児童質問紙調査】



## 【児童質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国語Aでは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で他領域に比べ、全国に最も近くなっている。</li> <li>○ 算数Bでは「図形」で他領域に比べ、全国に最も近くなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業で各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けた結果、児童が算数の問題の解き方が分からないときは、いろいろな方法を考えるようになり、算数Bの「図形」で他領域に比べ、全国に最も近くなったと考えられる。</li> </ul>
児童質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」という質問に対して、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国を上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平均正答率の推移については、言語活動を適切に位置付け、発言や活動の時間を確保して授業を進めた結果、児童が授業の中で分からないことがあったら、その場で先生に尋ねるようになり、全教科で、全国との差が縮まってきたと考えられる。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けたか」という質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合が全国を上回っている。</li> </ul>	

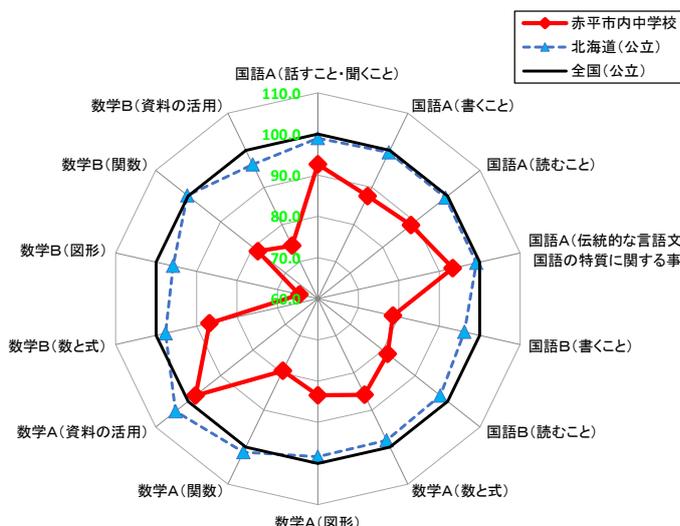
## 【赤平市の学力向上策】

- ◎ 学力向上支援事業を活用し、北海道の平均正答率に近付けることを目標にした成果とまとめの発信
- ◎ 市学力向上委員会を設置するとともに、市学力向上プランを策定し、全小・中学校で共通の取組を実施
- ◎ 全学年での標準学力テスト(NRT)実施で、経年比較により個々の状況把握

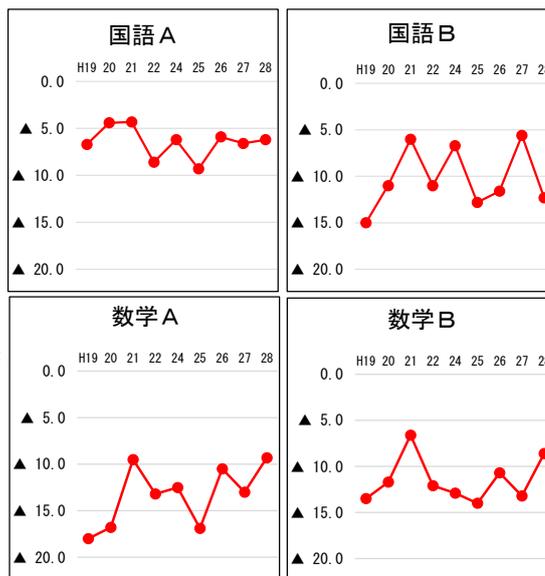
# ■赤平市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:2、生徒数:72名)

## 【教科全体の状況】

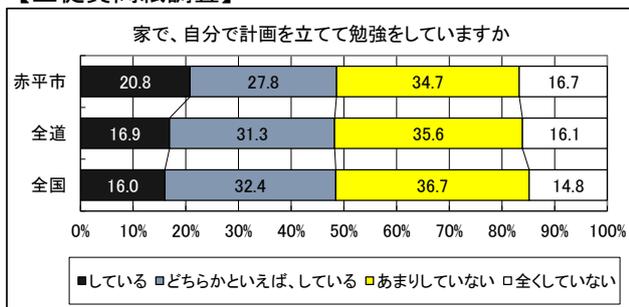
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



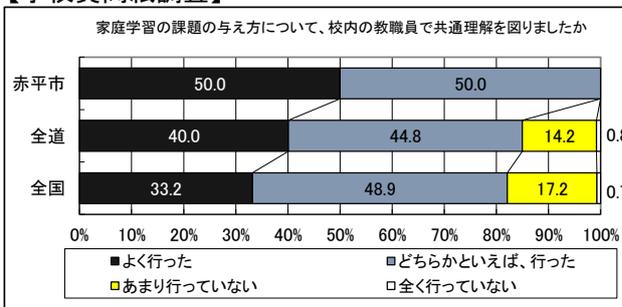
## 【平均正答率の全国との差の推移】



## 【生徒質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

調査項目	分析内容
教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語Aでは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で他領域に比べ、全国に最も近くなっている。</li> <li>数学Aでは「資料の活用」で他領域に比べ、全国に最も近くなっている。</li> </ul>
生徒質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して、「している」と回答した生徒の割合が全国を上回っている。</li> </ul>
学校質問紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか」という質問に対して、「よく行った」と回答した学校の割合が全国を上回っている。</li> </ul>

## 【赤平市の学力向上策】

- ◎ 学力向上支援事業を活用し、北海道の平均正答率に近付けることを目標にした成果とまとめの発信
- ◎ 市学力向上委員会を設置するとともに、市学力向上プランを策定し、全小・中学校で共通の取組を実施
- ◎ 全学年での標準学力テスト(NRT)実施で、経年比較により個々の状況把握